

「歴史街道」を歩けば 歴史の舞台がもつと身近に

ドイツにはロマンチック街道やゲーテ街道といったテーマ性ある旅のルートがありますが、日本でも「歴史街道」とよばれるルート整備が進められています。歴史街道推進協議会の中心として活躍する井戸智樹さん（当倶楽部理事）にお話を聞きました。

Q 「歴史街道」について教えてください

関西は、歴史文化の宝庫で、国宝や重要文化財の半分くらいが集積しています。形のある世界文化遺産だけで、法隆寺、姫路城、京都、奈良、そして昨年7月に指定された紀伊半島の霊場と参詣道の5つ。無形の世界文化遺産の文楽（大阪）を合わせるとなんと6つもあります。たぶん、同じくらいの面積にこれだけ集積しているエリアは、北京、パリ、ローマ、アテネくらいしかないと思います。

歴史街道とは、関西をベースに悠久の歴史の舞台を訪ねながら、日本文化の魅力を楽しむ新しいルートのこと。伊勢、飛鳥、奈良、京都、大阪、神戸といった歴史都市を、時代の流れに沿ってたどる約300キロのメインルート（右図）と、各地の特徴をテーマに活かした3つのネットワークがあり、100ほどの市町村がこの活動に加盟しています。歴史街道推進協議会は、こうした歴史文化を切り口に、広報活動や広域整備を担っています。

Q この活動に携わるきっかけは

構想そのものは、作家で元経済企画庁長官の堺屋太一さんのアイデアからはじまりました。ちょっとしたご縁で「手伝ってくれ」と。最初はほんとに何もなくて、ある日、堺屋さんに「打ち合わせや交通費など経費が全部持ち出しなのですが」と聞いたら、「井戸君、それはねえあなた、昼間はこの仕事をして、夜は牛井屋さんで働きなさい」といわれました（笑）。それがいまでは専従スタッフ10名、関係者が何百人ほど、関連事業もトータルすると年間100億円前後の規模になりました。



Q 歴史の面白さについて教えてください

姫路城（世界遺産）を例にしましょう。大阪や京都から離れた姫路に、どうしてあんなにかい城ができたのか、不思議だと思いませんか。「西の守りを固める必要があった」というのはひとつの理由ですが、それだけじゃない。

じつは姫路城を造ったのは「嫁さんの実家パワー」なのです。池田輝政の奥さんは徳川家康の娘で家康のお気に入り。このとき52万石。家康は自分の子や孫を露骨に差別したといわれていますが、姫路は孫たちの領地を合わせると実質100万石くらいをもらった。池田氏が鳥取に行ってから本多忠政ですが、この人の奥さんも家康の孫。このときに15万石。その子どもが豊臣秀頼の未亡人の千姫と結婚した。それで結納がわりに10万石。西の丸とか三の丸というのはそれで造ったんですね。「大きな家だなあ……」と感心していたら、けっきょくみんな嫁さんの実家に建ててもらったものだった」みたいな話は、みなさんのまわりにもわりとよくあると思います。（笑）歴史は案外身近なものなのですよ。

⇒井戸さんがコーディネーターを務める「歴史街道講座」（既報・3/22～25）は申し込み受付中です。資料請求は事務局まで

井戸智樹 Ido Tomoki

1959年姫路市生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。在学中は陸走部で瀬古氏とともに長距離を走る。松下政経塾に3期生として入塾。1985年高橋亀吉賞を受賞。1995年歴史街道推進協議会事務局長に就任。1999年国土庁地域連携推進委員会委員。4男1女の父

